

特集1
中学生
海外派遣事業

黒潮町では、将来を担う子どもたちに、異文化の生活を体験し交流を図ることで国際的な視野を広めてもらうため、毎年、町内中学校3年生を対象としたニュージールランドへの派遣事業を行っています。今年度は、佐賀中学校3年生5人、大方中学校3年生6人が研修生として参加しました。

NZ交流団長レポート
平成19年度
中学生海外派遣事業に参加して
町長 下村正直

黒潮町として2度目の中学生海外派遣事業が、8月下旬のこちらからの訪問と、9月下旬の受け入れという日程で行われました。

今回は私も交流団の団長として参加し、またホームステイの受け入れで大変貴重な体験をさせて頂きました。

今回の交流団は、中学3年生11名と引率者が4名でした。8月22日関西国際空港から夜のフライトでニュージールランドに向かいました。

生徒のほとんどは初めての海外訪問でしたので、機内食、出国や入国手続き、そしてNZドルへの両替など次々と初めての体験をしました。

私自身何年か前の同じ季節に南島を訪れたことがありましたが、南島に比べると北島は広いばかりでなく、地形に起伏があり、川や湖や丘が変化をもたらし、全体として潤いと安らぎを感じさせる風情でした。あちこちに寒緋桜や大木のしゃくなげが咲き誇っていましたので、日本の季節という3月の上旬ぐらいでしょうか。

最初の宿泊地は、内陸部のロトルアという町でしたが、交流先のハミルトンも含めこの地域は、ニュージールランドの人口400万人のうち3割を占める先住民族のマオリの人たちが多く住み、マオリの文化や伝統がとても大切にされている地域で、歴史的な経過もあつたようですが、今ではイギリス系の白人とマオリの人たちは互い尊敬しあい融合しているとのこと。そうしたマオリの昔の暮らしぶりや儀式、歌や踊りを見ることができる「マオリ村」

を見学しました。歓迎の儀式や「ハカ」という迫力満点の踊りに生徒たちも感動したようでした。

この「ハカ」は、いろいろな場面で行われ、ニュージールランド代表のラグビーチーム「オールブラックス」が試合の前には必ず「ハカ」をやるのは有名な話です。

翌日はいよいよハミルトンの町に入り、交流先のフェアフィールド中学校を訪れました。ここでもまずマオリの歓迎の儀式から始まり、お互いが歌の交歓をしました。

生徒たちは、日本の中学生より少し年齢が低く、小学校もあつてかとても元気がよく、この季節に大半の生徒がはだして飛び回っていました。

学校全体へのご挨拶は月曜日に予定されていましたので、このあとステイ先の生徒たちと対面し、それぞれの保護者が生徒たちを連れて帰りました。11人の生徒がそれぞれひとりで見知らぬ土地で初対面の家族の中に入っていくわけですので、不安もあつただろうと思います。

翌朝それぞれにいろいろな

ことがあつたようでしたが、元気に顔をそろえることができました。この日は、ステイ先の家族や先生たちと「土ボタル」で有名なワイトモケーパーやキウイハウスを見学しました。

月曜日の朝礼の時間に、大きな講堂で全校生徒と先生方にご挨拶をし、歌や踊りの交歓、記念品の交換などをしました。授業のほうは、全員がクシユラ先生(女性)のクラスに入れてもらい、2日間交流をしたわけですが、この学校は日本に関心があり、教室には日本語を書いたカードが

いっぱい貼られていたし、学校中の生徒が「こんにちは」と日本語で声をかけてくれました。全体に日本の学校と比べると時間や規則に縛られていない感じで、生徒がのびのびしているように感じました。

私自身が、わが町の中学生と時間と場所を共有できたことは大きな意義を感じました。今回の交流を通じて生徒の皆さんのいろいろな面を見ることができたが、素直でかわいといった面がある反面で、引率の先生たちの大事な話を注意深く聞いて、自己管理に

努めるとか持ち物の管理を自分でしっかりとやるといった点で、もう少しがんばってほしいと感じました。

9月の交流団受け入れの際、私の家では、コネリー校長先生ご夫婦に滞在してもらいました。とにかく気を使い過ぎないようにと、極力オープンな雰囲気でした。そのせいか日を重ねるごとに、違和感がなくなり、身のこなしや顔の表情などお互いの意思が伝わるような感じがして、日本人同士でいるような自然な感じが生まれてきました。

これは本来人間が人種や言語や生活習慣を超えて持っている感覚なのかなと思いつつ、時にそんな人間のすばらしさを感じました。

訪問と受け入れを通じて、ほんとうに多くの人びとの交流がありました。こうした交流がきっかけになり、その積み重ねがお互いに影響しあつて、国際的な視野と、豊かな心を持った人材が育っていくのではないかと実感しました。

この事業にご理解とご協力をいただいた多くの皆様に感謝申し上げます。

● 澳本 芽生 (大方中学校) ●

私達は、今回ニュージーランドへ行って来ました。10日間の旅でしたが、とても色々な事が学べて良い体験が出来ました。

私が一番思い出深く残っているのは、マオリ族のコンサートです。マオリとは、NZの先住民の人達の事です。コンサート内容は、当時の生活風景を説明してくれたり、マオリの伝統的なダンスと歌を見ました。ものすごく熱気にあふれていて、眼差しや表情で文化を大切にしていたんだという事や、私達に伝えたい事が、言葉は分からなくても充分伝わって来ました。

とても、日本にはない感じで、これからは私達が日本の文化、伝統を伝えなくてはならないなと思いました。

今回の旅で、学んだ事を、将来の夢やこれからの進路へ向けて、生かしていけるようがんばっていききたいです。

trainee-report

● 岸本 純 (佐賀中学校) ●

フェアフィールド中学校を訪問して初めに自分たちの踊り「よさこいソーラン」を皆さんに見てもらいました。その踊りの説明を自分がしました。

しかし、紙ばかり見ていて、あまり前を向くことができず自分にとってこの説明はあまり良くないものだと思っていました。けれど、あまりつまらずに言えたことは良かったと思います。

授業では、最初はあまり話せずにはいましたが、隣に座っていた生徒に優しく接してもらえたのでなんとか授業についていくことができました。休み時間になり、学校内を歩いているとたくさんの生徒が日本語で声をかけてくれました。その声かけに自分は何度も日本語で挨拶をするようにして行きました。話しかけてくれる生徒もいて、その生徒とは仲を深めることができました。

この研修は中学生最後の夏で一番の思い出になったと思います。

trainee-report



● 柿内 笑里 (大方中学校) ●

私は、今回の海外派遣事業に参加し、ニュージーランドに行って本当に良かったと思っています。

ニュージーランドでいろんな人達と交流し、たくさんの観光地を回るとても貴重な体験をすることができました。

観光地はいっぱい行ったけど、中でも私は、Huka Fallsの滝が一番印象に残っています。その滝は面積が大きく、水量がすごくて、でもなによりも水がとても透き通っていて、とてもキレイでした。

あんなに大きく、キレイな滝を初めて見たので、印象も強く残っていて、もう一度行ってみたいなあと思いました。

そうしてニュージーランドで勉強した事を、私は、将来に、役立てていきたいと思っています。

trainee-report

● 柴岡 優見 (佐賀中学校) ●

ホームステイは初めてで初日はすごく緊張してあまり話すことができなかったけれど、2日目からは慣れてきてたくさん話せるようになりました。レイズ"の家に来ていた日本人の方のアドバイスを頂いたからです。

ホームステイ先の家族は、私が分かるように優しくゆっくり話してくれました。いつも笑って本当に楽しい毎日を過ごすことができました。レイズ"やカールのお陰です。私が退屈しないようにバスケットボールや卓球などをして遊んでくれました。

レイズ"やカールには日本語を教え、そして2人からはたくさんの英語を学びました。英語の勉強は、自分ひとりでするよりも、ホームステイに入り学んでいく方がずっと勉強になると思いました。ホームステイの期間がもっと長かったらと思いました。

trainee-report

芝崎ひかり (佐賀中学校)

私がNZへ行って感じた文化の一つにマオリコンサートがあります。マオリコンサートでは夜間の寒い中、マオリ族の衣装で踊りや歌を見せてくれました。

はじめて見たその歌などには本当に驚くばかりでした。その迫力に少し怖く感じる事もあったけど、これこそ伝統的な歓迎の意味の踊りや歌だと思つとすごい事だと思いました。

その中でも、とても感動したのはマオリの男の人と女の人の歌です。楽器はギターだけです。その歌声には本当に感動しました。何か人の心を動かすようなそんな歌声でした。

その他にマオリ族の家なども見ました。話で聞くのと実際見るのとでは想像を超える違いがありました。こういう文化を自分の目で見て感じる事ができ本当によかったと思います。昔の人たちから伝えてきたこの貴重な文化をこれからもずっと伝えていってほしいと思つたし、自分達ももっとたくさんの事を分かつて将来に役立てていく事が大切だと思いました。

その国ごとの文化は途絶える事なく伝えていく事はとてもはずばらしい大切な事です。

trainee-report

浜岡 夢 (大方中学校)

ニュージーランドに行けることが決まって本当に嬉しかったです。嬉しくて飛行機の中では眠れませんでした。

オークランド空港からバスで移動する周りの景色は牧場ばかりで馬や牛がたくさんいて見るもの全てが初めてで感動の連続でした。フェアフィールド中学校を訪問して初日は全校生徒の前で「よさこい」を踊ったのがはずかしかった。授業はマオリ族の「ポイ」を作った。一緒に机で話しかけてくれたウィックリーという生徒が手伝ってくれた。作った後は「ポイ」の使い方を習った。休み時間はハンドボールをした。いろんな生徒に質問されて大変だった。2日目、キーウイの絵を描いてポストカードを作った。

体育では、外で走り回ったり、教室で椅子取りゲームをして楽しかった。お昼は学校を回って写真を撮ったりした。お別れの日には一緒に授業してくれた生徒達とホームステイ先の生徒が見送ってくれた。写真を撮ったり、ハグしたりすごい嬉しかった。ニュージーランドの生徒はみんなフレンドリーでおもしろい生徒もたくさんいて本当に楽しい思い出ができました。

trainee-report

門脇 亮樹 (佐賀中学校)

ニュージーランドの人々は皆明るく陽気な感じでした。笑顔が絶えなくていいなあと思いました。日本との文化の違いはたくさんありました。

一番驚いたのは学校生活で普通に皆、お菓子を食べたり、ジュースを飲んでいました。日本ではあり得ない事です。やっぱり外国だなという感じがしました。食事も全く違います。まず、僕のステイ先では、晩ご飯にスープとパンが出ました。野菜も出たけど皆、肉ほど食べませんでした。味はとてもよい味でおいしかったです。

また、交通ルールについてもありました。走っている車のスピードがとても速いです。日本ではすぐに捕まってしまう。制限速度の看板を見ても「100」と書いており危ないんじゃないかと思いました。

また、ニュージーランドでは、シートベルト着用の義務化がされており、この事はいいことだと思いました。このように日本とニュージーランドではたくさんの違いがあります。まだまだたくさんあると思うし、もう一回行きたいと思います。

trainee-report

北岡 世菜 (佐賀中学校)

いよいよホームステイをする日です。ものすごく緊張したけどホストファミリーの人達が優しくしてくれ、何よりNZを味わうことができました。

なぜNZを味わうことができたかというと、まずは『食事』です。

私のホストファミリーのモーガンの家では、私がいる間ずっとNZならではの食事を出してくれました。

ホームステイ1日目は、生野菜と焼き野菜、蒸した野菜でした。私は日本であまり野菜を主食にした事がなかったので正直少し食べたくなかったけど、食べてみると野菜の甘みと歯ごたえがあって、とてもおいしかったです。

2日目は、羊の肉(ラム肉)と焼いたハムの上に蒸したパイナップルを載せているものとNZのデザートでした。1日目が野菜だけだったせいか味も香りも濃く感じました。デザートはケーキの上にキウイが載っていて中は砂糖みたいな感じだったけどキウイの味を生かしている料理だと思いました。

ホームステイをとおして、NZの食生活の文化にも触れることができとてもよかったと思います。

trainee-report

米津 聡浩 (大方中学校)

8月24日は、まず、フカ滝に行きました。そこは、水の量がすごくてとてもきれいでした。

フカ滝では、現地のの人から話しかけられて、「ニーハオ」と言われたけど、「ジャパニーズ」と言ったら、「イチ、ニ、サン…」と上手に日本語で話していて、一緒に写真もとってくれました。日本人と違って、とてもフレンドリーで、とても楽しい人でした。

その後、フェアフィールド中学校へ行きました。みんなが、話しかけてきたり握手を求めてきたりして、みんなフレンドリーだと思いました。歓迎会では、マオリ族の子達が歌を披露してくれました。何を言っているかはあからなかったけど、自分達の為に一生懸命歌ってくれていてうれしかったです。

かけがえのない、貴重な体験をさせてもらえました。とても充実した10日間だったと思います。

この経験を少しでも、将来に活かされれば嬉しいです。

trainee-report

濱崎 陽夫 (大方中学校)

僕が、ニュージーランドでの10日間の派遣事業を終えて、一番心に残っていることは、ニュージーランドの人たちの優しさです。

僕は、ニュージーランドに行く前、人種も文化も違う所で10日間も暮らせるだろうか、とても心配でした。

ですが、ニュージーランドに到着してすぐ、ニュージーランドの人達がたくさんあいさつしてくれました。そのおかげで、ぼくの不安は一瞬で消えました。

ホームステイ先やフェアフィールド中学校でもあたたかく僕をむかえてくれ心からうれしかったです。

日本とニュージーランドでは文化の違いも多かったし外見もまったく違いましたが、なんのためらいもなく仲良くしてくれたことに感謝したいです。

このような大変貴重な体験ができて自分自身大きく成長することができたと思います。

trainee-report



吉尾麻莉也 (大方中学校)

私がニュージーランドに行った時、文化の違いに驚いた事がたくさんありました。

土足で家に上がる事や洋食を食べる以外の文化の違いについて、まず一つめは、間食が多いことです。学校でお菓子を食べてもいいことが驚きました。

二つめは、シャワーを浴びる時、シャワールームがあって、立って浴びる事です。

三つめは、向こうの中学校に多くの人種の人達が通っていることです。マオリ族の血を引き継いでいる人や、黒人や、イスラム教徒の人やアジア系の人や、白人。色々な人種がいることは良い事だと思います。まだまだたくさん驚くことができました。

日本から出た事のない私は、ニュージーランドに行ったことで、驚きや発見がとても新鮮でした。ニュージーランドに行くと本当に良かったと思いました。

trainee-report

期待と不安を胸いっぱいにして、ニュージーランドへと出発した研修生11名でしたが、滞在した10日間、「自分の力を試したい」「自分の思いを英語で伝えたい」「外国の人と交流したい」「海外で友だちをつくりたい」というそれぞれの思いを行動に起こしていただくことと思います。

通じて、国内外に限らない人との交流の大切さを学び、自分の将来を見つめる機会になったことと願っています。

また、9月には派遣先のフェアフィールド中学校から17人の交流団が黒潮町に来町し、町内の24家族でホームステイ受け入れをしていただきました。言葉が通じない環境の中、お互いにコミュニケーションを図ることは大変なことだったと思います。

ご協力いただいたご家族のみなさん、本当にありがとうございました。